

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教育学 ）	氏名	藤井 恵子
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目			
<p style="text-align: center;">フィンランドにおける音楽科カリキュラム 及び教員養成課程カリキュラムの構成と内容の変遷 －求められる資質・能力という観点から－</p>			
論文審査担当者			
<p style="text-align: center;">主 査 教授 三村 真弓 審査委員 教授 七木田 敦 審査委員 教授 柳瀬 陽介 審査委員 教授 枝川 一也</p>			
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、フィンランドのナショナルコアカリキュラム National Core Curriculum（以下、NCC）における音楽科カリキュラムと、主要三大学における音楽科教員養成課程カリキュラムを対象として、求められる資質・能力という観点から、歴史的変遷を踏まえてその構成と内容の特徴を検討し、これによって、現代フィンランドにおいて音楽科教員に求められる資質・能力とはどのようなものかを解明することを研究目的としている。</p> <p>本論文は、序章、第Ⅰ部（第1章・第2章）、第Ⅱ部（第3章～第6章）、第Ⅲ部（第7章・第8章）、及び終章で構成されている。</p> <p>第Ⅰ部では、16世紀後半から21世紀初頭までのフィンランドの音楽科カリキュラム及び教員養成課程カリキュラムの史的変遷が論じられている。1571年のスウェーデン・フィンランド王国の時代から、教理諮問の中に、聖歌が歌えることという内容が提示されており、一般の民衆に対し既に公的な側面を持つ音楽教育の開始があったことをスウェーデン側の史料から明らかにした。19世紀初頭は、国民学校や教員養成セミナーの科目にも合唱（Singing）の教科が存在し、続く基礎学校への移行期に、各大学における基礎学校学級担任教員養成コースの入学試験に音楽実技が組み込まれ、フィンランドの基礎学校教育において音楽教育の必要性が公に認められた。1970年代は、教育改革の流れを受け、音楽科カリキュラムの構成も大きく変化した。1994年改訂の国家カリキュラム Framework Curriculum for the Comprehensive School 1994では、J. デューイの思想を取り入れ、それまでの詳細な目標、内容を細かく規定したものから、目標と簡易な教材内容を示すガイドラインへの転換を図り、地方自治体や学校の権限を拡大したことを指摘している。</p> <p>第Ⅱ部では、フィンランドのNCC2004とNCC2014の就学前教育から後期中等学校教育までの各教育段階における音楽科カリキュラムの構成と特徴について論じている。NCC2004における音楽科カリキュラムの内容から、当時の教育政策が1997～2003年にOECDのDeSeCoで提唱されたキー・コンピテンシーの影響を受けていること、音楽を多様な表現や、協働できる資質・能力を育成する社会的学習の1つの手段としてとらえていることを論じている。現地で調査を行った各教育段階における現場の音楽科教員の実践に関して、生徒の反応に柔軟で細やかに対応する教員の指導スキルの高さを指摘している。</p>			

また、NCC2004 施行時の地方自治体の各教育段階における音楽科カリキュラムを分析し、各地方自治体の取り組みに差異がある点を明らかにした。続いて、NCC2004 における音楽科カリキュラムに関する評価報告『2020 年の基礎教育』によって、音楽が子ども、市民及び社会に対してそれぞれどのような機能・役割を果たしているのか、教科の枠組みを超えて第三者機関により多角的に分析・評価されていることを指摘している。さらに、評価報告をもとに行われた NCC2014 改訂における音楽科カリキュラムの構成と特徴を整理した。NCC2014 における音楽科カリキュラムの内容に関して、学年区分の変更、単位の増加、課題の増加、上下学年の協働、教科の目標の細分化、及び包括的なコンピテンシーの学習領域と目標の関連付けの明示化といった、様々な変容が明らかになった。一方、音楽による社会的学習や、生涯学習の中の位置付けを重視する視点は、NCC2004 から継続している。つまり、グローバル化する社会と持続可能な未来への対応を大きな課題とし、音楽科授業全体を通して、今後諸問題を解決するのに必要となる資質・能力を生徒に育成することを掲げ、音楽の教科の特性を社会的学習の側面から認識していることは、NCC2004 から継続しているのである。NCC2004 と NCC2014 における音楽科教育の課題や目標において、活動を通して得られる様々なスキルを重視し、全体的な成長を促すスタンスは共通であると論じている。

第Ⅲ部では、NCC2004 及び NCC2014 とそれぞれの施行時における音楽科教員養成課程カリキュラムの相関を明らかにするべく、音楽科教員養成課程を擁する国立大学であるオウル大学、ユヴァスキュラ大学、シベリウス・アカデミーの音楽科教員養成カリキュラムを比較・分析している。各大学は教育学と長期的な教育実習の重視を基盤として、音楽を子どもにどのように学ばせるかを教え、専門分野で行われる活動と組み合わせる様々な実践的指導スキルを培い、また実践に対して科学的に調査を行い、分析・評価・研究できるリサーチスキルの育成にも重点を置いていることを指摘している。

終章では、これらを総括し、現代フィンランドにおいて音楽科教員に求められる資質・能力とは、①高い実技能力（即興能力、伴奏、合奏などに対応した高度な教科専門性）、②伝統音楽も含めた広範な専門知識、③教育学や長期的な教育実習で培った実践的なスキルに裏打ちされた指導力、④協働する力を育てる様々なプロジェクトを推進するリーダーシップ力、⑤現場で他の職員とのコミュニケーションを円滑に行える力、⑥最新の音楽テクノロジーに対応する力、⑦リサーチスキルに基づき継続して研究し続ける力であると結論付けている。

本論文は、次の3点で高く評価できる。

1. 現在の世界の教育界の潮流である汎用的な資質・能力の育成が、フィンランドのナショナルコアカリキュラムでは早い時期から目指されており、音楽科のカリキュラムの構成と内容にもそれが明確に示されていることが明らかになったこと。
2. フィンランドの音楽科教員養成課程のカリキュラム分析から、音楽科教員に求められる資質・能力がどのようなものであるかが明らかになったこと。
3. 音楽科教員の資質・能力育成のためのカリキュラム構成と内容が明らかとなり、我が国の今後の音楽科教員養成に対して、大きな示唆を与えることができたこと。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成 31 年 2 月 13 日